

## 登壇者一覧

(敬称略)

役割	所属	役職	氏名
コーディネーター	愛知大学	教授	戸田 敏行
アドバイザー	中部地方整備局	道路部長	池口 正晃
報告者	浜松河川国道事務所	所長	田中 里佳
報告者	南信州新聞社	編集局記者	河原 俊文
発言者	浜松市議会	議長	飯田 末夫
発言者	豊橋市議会	議長	藤原 孝夫
発言者	飯田市議会	議長	清水 勇
発言者	豊橋市	市長	佐原 光一
発言者	新城市	市長	穂積 亮次
発言者	湖西市	市長	影山 剛士
発言者	阿南町	町長	勝野 一成
発言者	喬木村	村長	市瀬 直史
発言者	渥美商工会	会長	森下 直樹
発言者	飯田商工会議所	会頭	柴田 忠昭
発言者	駒ヶ根商工会議所	会頭	山浦 速夫
発言者	地域づくりサポートネット	代表	山内 秀彦
発言者	大原屋コミュニケーションズ	代表	尾澤 章

## ■コーディネーター

## 愛知大学 教授 戸田敏行 氏

本日、「道」分科会のコーディネーターを務めさせていただきます愛知大学の戸田でございます。皆様、どうぞよろしくお願いたします。また、中部地方整備局の池

口道路部長にアドバイザーとしてご出席をいただいております。

この「道」の分科会のテーマは、新ビジョン（案）の基本方針1「道」の「中部圏の中核的な都市圏となる地域基盤の形成」となっております。



進め方ですが、最初に事務局より新ビジョンの中から、特に「道」の分科会に関するところについて概要を説明していただきます。

次に、重点プロジェクト1の「三遠南信の交流ネットワークの形成プロジェクト」に関連しまして、国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所の所長の田中様から「未来につなぐ三遠南信自動車道」と題して、ご報告をいただきます。また、重点プロジェクト2の「三遠南信県民の一体的醸成プロジェクト」に関連しまして、株式会社南信州新聞社の編集局記者の河原様に、三遠南信情報紙「三遠南信 Biz」創刊に向けて、ご報告をいただきます。

その後、本日、ご出席いただいた参加者の皆様にご意見をいただくという流れになっています。

それでは、まず新ビジョン（案）について事務局から、説明をお願いします。

## ■事務局

新ビジョンでは、地域連携の基本方針を5つにまとめ、そのうち特に重点的に取り組むものとして、7つの重点プロジェクトを設けています。この「道」分科会は、基本方針の「道」と重点プロジェクトの1・2について意見交換を行います。

基本方針1「中部圏の中核的都市圏となる地域基本基盤の形成」につきましては、三遠南信地域における人と物の交流を促進するため、道路や鉄道の交通網の整備や活用、

また、県境による偏りのない地域全体での情報交流のため、情報ネットワークの基盤整備や県境を越えた情報共有の推進に取り組むこととしています。

重点プロジェクト1「三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト」は、三遠南信自動車道を初めとする主要道路の整備促進、リニア中央新幹線駅と既存公共交通網との効果的な接続、東名・新東名高速道路や国道23号、151号線など既存のストックの活用、東三河地域と遠州地域を環状でつなぐ豊橋・浜松環状道路の整備促進、三河港などの整備と利用促進など、このエリアを面で捉えて三遠南信地域の交流や物流を支える道路や、公共交通の整備促進を図るプロジェクトです。

重点プロジェクト2「三遠南信県民の一体感醸成プロジェクト」は、メディアや広報紙、SNS を活用した地域内の情報の共有、三遠南信スポーツ交流事業の実施、三遠南信地域の歴史や文化の共有や発信などを通じて、地域住民の一体感の醸成と交流促進を図るプロジェクトです。

事務局からの説明は、以上になります。よろしく願いいたします。

## ■コーディネーター

ありがとうございました。概略的な説明ですが、プロジェクトの全体像ということでご理解いただけたかと思えます。

それでは、続きまして国土交通省中部地方整備局の浜松河川国道事務所の田中所長から「未来につなぐ三遠南信自動車道」と題して、ご報告をいただきます。よろしく願いいたします。

## ■浜松河川国道事務所 所長 田中里佳 氏

浜松河川国道事務所長の田中様でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

今日は短い時間ですけれども「未来につなぐ三遠南信自動車道」と題しまして、三

遠南信自動車道の現在の整備の状況、整備の効果、地域にどういった効果をもたらすかということ、事例を持って幾つかご紹介したいと思っております。

まず、三遠南信自動車道についてですが、長野県の飯田市から静岡県浜松市をつなぐ全長約100kmの高規格幹線道路でございます。この事業は、高速サービスの提供、災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上、地域間の交流促進、地域の活性化の支援などを目的としています。

続きまして、整備の状況をご説明いたします。三遠南信自動車道は、道路のネットワーク効果の観点から、中央自動車道、新東名高速道路などの地域の主要な他路線との接続部分や、通行不能区間の青崩峠を優先的に、順次整備を進めているところでございます。平成29年度末で約100kmのうち、約5割の整備を完了しています。残りの区間につきましても、引き続き事業を推進しているところでございますけれども、このうち水窪～佐久間間の約14kmについては、唯一の未事業化区間となっております。現在、環境アセスメントの最終的な手続を進めておまして、評価書を先日浜松市に提出し、30日間の縦覧後、新規事業化に向けて検討を進めていくという段階でございます。

続きまして、飯橋道路、青崩峠道路、佐久間道路・三遠道路の事業について簡単にご説明いたします。

飯橋道路につきましては、天竜峡インターチェンジから龍江インターチェンジ間の平成31年度の開通を目標にしておまして、現在、(仮称)天竜峡大橋の整備を進めているところでございます。青崩峠道路につきましては、非常に脆弱な地盤を通る道路でございます。今年度いよいよトンネルの本坑工事に入るという段階でございます。続いて佐久間道路・三遠道路でございますが、(仮称)佐久間インターチェンジから(仮

称)東栄インターチェンジにつきましては平成30年度の開通を目標に工事を進めているところでございます。(仮称)東栄インターチェンジから鳳来峡インターチェンジにつきましては最も長い約3.5kmの三遠第3トンネルの掘削を進めているところでございます。

続きまして、過去10年間、そして将来に向けての整備の状況と変遷についてご説明いたします。10年前は三遠南信自動車道の約2割のみが開通しておりました。現在は全体で約5割が開通しているという状況でございます。将来的には、リニア中央新幹線が2027年に開業予定であり、三遠南信自動車道の整備も進み、東西軸、そして南北軸の連結で、非常に広域的なネットワーク効果が地域全体に波及することが期待されます。

続きまして、三遠南信自動車道のストック効果について簡単にご説明いたします。

まず、「命の道」ということをご紹介します。現在静岡県側では、国道152号が生活道として利用されていますが、先日の台風24号による土砂崩れや、今年3月の浜松市の瀬尻地区におけるのり面の崩壊で、約半年間、全面通行止めとなり、住民の方の生活や観光面で非常に大きな影響がございました。今後、気候変動による気象の激甚化が加速していくと、他の地方で起きている大きな災害が、この地域で起こる可能性があるという状況でございます。非常に災害のリスクは高まっている中で、三遠自動車道の整備は災害時の信頼性、安全性に大きく寄与できるのではないかと考えております。

次に、観光交流の活性化についてご説明いたします。三遠南信自動車道の鳳来峡インターチェンジ～浜松いなさジャンクション間の開通、新東名高速道路の開通を契機に『三遠南信食の祭典』というイベントが開催されております。先日、10月21日に豊根村の茶臼山高原で第4回目が開催されま

した。私も、参加しましたが、非常にたくさんの方たちがお集まりいただいていた。今年度は1万3,000人ぐらいの来場者があったということです。このイベントに限らず、豊根村の観光入込客数の推移をみると、開通以降、1.3倍に伸びているという状況でございます。三遠南信自動車道がさらにつながりますと、こういった観光面、観光交流の活性化に寄与されるのではないかと考えております。

また、南信州の遠山の霜月祭り、奥三河の花まつり、そして遠州の遠江のひよんどりとおくないなど、歴史文化の面でも地域をつなげる役割を果たすのではないかと考えております。特に東栄町の花まつりにつきましては、参加者のうち約8割が東栄町外から来られているということでございます。このように地域外の方たちにお祭りに参加していただくとか、週末だけこの地域に来ていただくとか、何か仕事を見つけていただくとか、そういった関係を増やし、それがゆくゆくは定住促進につながる、ということにも三遠南信自動車道は寄与するのではないかと考えております。

次にリニア中央新幹線開業による波及効果でございます。リニア中央新幹線、そして東海道新幹線、三遠南信自動車道、このトライアングルが完成し、さらに中央自動車道により日本海側にもつながるということで、知的なネットワーク形成が期待できると思っております。

最後になりますが、「〇〇をつなぐ」ということで、この〇〇の中は、三遠南信自動車道を活用して、何をつなぐかということ、皆さんそれぞれが、未来志向のわくわくした気持ちで考えていただきたいと思います。それぞれのお立場で、この〇〇の中身が違って来るかと思えます。ただ、地域にあるお宝を探して、それをつないでいく、育てていくということ、そしてこの地域を未来につないでいくということは、皆さん

共通しているかと思えます。私どもも三遠南信自動車道を通じまして、三遠南信地域を一緒に盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞ今後とも議論のほうをよろしくお願いいたします。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。三遠南信自動車道は新ビジョンの中核事業であります、なかなか見る機会の無い全体像や進捗を総括的に見せていただきました。東栄・佐久間間が本年度開通し、約5割が整備されるということで、リニア中央新幹線が開業と併せた全通にも期待が持てました。ストック効果についても、「命の道」、観光、あるいは歴史文化という具体例をご紹介いただきました。

続いて、株式会社南信州新聞社編集局記者の河原様から、三遠南信地域情報紙「三遠南信Biz」発刊に向けてということでご報告をいただきます。よろしく申し上げます。

#### ■南信州新聞社 編集局記者 河原俊文 氏

南信州新聞社の河原と申します。よろしく申し上げます。

まず、私どもの新聞社の紹介から始めたいと思えます。私どもは、飯田市の地域紙に当たります。昭和29年に、それまでありました3紙が合併し、創刊いたしました。来年で創刊65周年になります。取材エリアは飯田市と下伊那郡で、事業概要としまして日刊新聞の南信州新聞発行、それから出版、印刷を手がけております。

私どもは、三遠南信地域の連携を非常に重要視しておりまして、これまでも活動を行ってまいりました。平成5年に、浜松に当時あった月間の地域紙を発行する会社から、これからは連携の時代だというご提案がありまして、豊橋の東日新聞社と3者で連携し三遠南信産業ガイドブックを作成いたしました。平成21年には、遠州地域と東三河地

域の情報を南信州新聞社のエリアに伝えて交流を図ろうではないかということで、4月から毎月1回、三遠南信見聞録というイベント情報を、本市に掲載しております。これをプラットフォームのような形にしまして、翌平成22年から南信州エリアの観光ガイドをフリーペーパーとして発行し、三遠南信地域に配付しております、非常に好評で毎回品薄になっております。

ただ、現行ビジョンでも、県境を越えたマスコミの連携といったことが掲げられておりますが、なかなか実現しないという状況でございます。もう少し踏み込んで何かできるのではないかと考えていた中、各方面からご意見を伺いまして、私どもから提案をさせていただきたいのが、本日配付させていただいた「三遠南信 Biz」という定期刊行物によって、情報交流を図ろうということです。

「三遠南信 Biz」の表紙のトップインタビューにもございましたように、交流とは経済活動のことであるという考えから、紙面の内容は、このエリアの時代を先取りする動きであるとか、中小企業や個人が行っているローカルビジネスを、なりわい・ビジネス・事業と3段階に分けて、これを、人を中心に紹介することを考えております。当面はタブロイドの全ページカラーで月1回発行し、続いてウェブ展開を考えております。取材対象は有識者の方、さまざまな立場の方にライター、あるいは情報提供者として関わっていただきたいと考えております。加えて、将来的には他の報道機関の皆さんと連携して発行できるようにすることで、地域の期待に応えていきたいと思っております。豊橋市にも地域紙がございますので、お声をかけさせていただいております、まだこれからですが、何とかいい話にできたらというふうに切望しております。

テーマは、「小さく発信してみんなで育てていこう」ということで、新しい時代を生

き抜くためのヒントや活力を三遠南信の人と地域に与えたいと考えており、企業というより人に着目し、この人に会ってみたいとか、あるいはこの地域に行ってみたいという思いを感受することで交流を促進し、それが地域の活力につながればと思っております。また、遠州地域や東三河地域などのエリア区分を表示することによって分断が起きているようなきらいもありますので、そのような記載せず一体感を見せていくこと、それから、それぞれの地域のおおまかな様子が伝わるようなダイジェストニュースの掲載を考えており、媒体の連携が不可欠であると感じております。

期待できる効果としては、人と人との新しいつながりや人の行き来が生まれ、三遠南信圏としての意識が少しずつ高まり、最終的には時代の変化に対応した地域づくりが進むと考えております。非常に大きな言い方ですが、「三遠南信 Biz」のターゲットは共感してくださる方、皆さんだと考えております。連携のご支援、協力のほどよろしくお願いいたします。

## ■コーディネーター

三遠南信地域のマスメディアが切れているということは、見ている情報が違うという大変大きな課題です。その中で新しくメディアを発展させていくということで、ご提言をいただきました。本日は実物が配られておりますので、またごらんをいただきながら次の意見交換ができればと思います。ありがとうございました。

それでは意見交換に移らせていただきます。本日の意見交換は2部構成になっており、前半が三遠南信の交通ネットワーク形成プロジェクトということで、道路やハードに関する内容として、後半は三遠南信県民の一体感醸成プロジェクトということで、情報の共有に関する内容です。この2つに分けてご議論をいただきたいと思っております。

道路はつながらなければ道として機能せず、また道と道がつながらなければ面のつながりになりませんので、県を越えるこの地域の道をどうするか、そういった観点から、ご意見いただければ幸いです。

最初に、サミット開催地の豊橋市議会の藤原議長からご発言をお願いします。

### ■豊橋市議会 議長 藤原孝夫 氏

道をどう活かしていくかということがポイントだと思います。先ほどの国土交通省様からの説明で、三遠南信自動車道の整備の進捗状況は大変進んでいるということで存分に期待していますが、浜松三ヶ日・豊橋道路の説明が一切ありませんでした。こういう場で説明していただけるように、まずは地域がしっかりと要望していかなければいけないなと思った次第でございます。私からは、3点言わせていただきます。

まず1点目は、豊橋にとっても、また三遠南信地域全体にとっても、三河港が大変重要だと考えています。皆様も御存じのように、三河港は多くの自動車の輸出入があり、また、総合物流拠点としても発展しています。各種製造業のトップランナーが集積をしている港であり、また、港を軸として豊橋、あるいは東三河、あるいは三遠南信地域全体に製造業が立地しています。この製造業の集積と自動車物流拠点、あるいは総合物流拠点を三遠南信全体で活用するには、浜松三ヶ日・豊橋道路の実現、名豊道路の豊橋東バイパスの4車線化、東三河縦貫道路等の整備推進など、縦軸の強化や充実をしていくことが重要です。また、遅れている新東名高速道路、東名高速道路、国道1号、国道23号等との結接点の強化により、関東、関西、東海地方各地などとの広域ネットワークが形成され、物流面で大いに活用されると期待しています。

2点目は、道路整備により広域ネットワークが形成される中で、航空宇宙産業、スマ

ート農業など、地域内の産業基盤整備や新産業の創出につなげていきたいと考えています。

3点目は、防災・医療活動における広域的な協力、連携体制を構築していくということで、横軸の新東名・東名高速道路、国道1号、国道23号の東西線と、南北の道路が整備されれば、緊急時に活用できると考えています。

最後に、三遠南信自動車道をつくる前はB/Cが1.2と言われていましたが、現在ではそれを大きく上回るような効果が出ています。さらに、豊橋東バイパスでも予想されたB/Cより高い効果が出ていることを踏まえると、併せれば大変大きな効果でありますし、そういったことを通じて三遠南信地域全体の住民の一体感が育まれていくことが大事だと考えています。

地域内には、まだまだ自然の壁、制度の壁、県域の壁がございます。20年後にはこういったものがなくなって、道路によって地域のどこへでも移動ができ、それが地域の一体感につながるのではないかと思います。

### ■コーディネーター

ありがとうございます。産業波及の面を特に強調していただきました。

それでは飯田市の清水議長さん、お願いいたします。

### ■飯田市議会 議長 清水勇 氏

先ほど、浜松河川国道事務所長の田中様の「〇〇をつなぐ」というお話しにもありました、人をつなぐ、物をつなぐ、文化・産業をつなぐということに関連して、お話をさせていただきたいと思います。

三遠南信地域は、古くから街道を行き交う人々の交流があり、経済的、文化的につながりが強く、相互の連携、協力の意識も高いと理解しています。この分科会のテー

マである「道」を活用しました地域の連携につきましても、人・物・文化の3つの視点があると考えています。来年度飯田市におきましては、三遠南信自動車道の天龍峡大橋が開通をする予定でございます。けた下には歩行者が通行できる歩道が設置され、水面80mの高さから、天竜奥三河国定公園の一部である名勝、天龍峡を見おろすことができます。四季折々の景色が見られるところでありまして、春は新緑、秋は紅葉、冬は飯田市のシンボルである風越山の雪景色等も見られるので、観光客の増加につなげたいと考えています。三遠南信自動車道が開通した区間の周辺では、製造品出荷額の増加が見られると聞いておりますし、将来的には浜松三ヶ日・豊橋道路の整備により、三河港との接続利便性が増し、地域産業の活性化や国際競争力の強化につながることを期待しております。

今年、飯田市は人形劇フェスタが始まって40周年のメモリアルイヤーでありました。人形劇を通じて友好都市となったフランスのシャルルヴィル・メジエール市の市長夫妻をお招きして、友好都市締結30周年記念式典や、人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)のアジア地域初の総会など、この夏はさまざまな記念行事が10日間にわたり行われました。

さて人形劇だけをとってみても、浜松市には「いなさ人形劇まつり」があるとお聞きしますし、豊橋市には「東三河人形劇まつり」などがあると伺っております。また、国道152号の沿線にも様々なお祭り文化がありまして、祭り街道とも言われている三遠南信自動車道沿線にも様々な伝統芸能があります。文化は、市民レベルで交流と連携を進める上で、本当に重要な視点と考えております。これからも、それらの地域と交流をつなげながら進めていこうと考えています。

## ■コーディネーター

ありがとうございました。三遠南信自動車道全般のことと、特に南信州の開発が進んでいる状況、産業波及、それから文化の中で人形の文化のつながりがあるということのご紹介をいただきました。

続いて、経済界からご発言いただきたいと思いますが、渥美商工会の森下会長お願いします。

## ■渥美商工会 会長 森下直樹 氏

私たちが住む渥美半島、特に観光地域である半島先端の伊良湖岬は高速道路へのアクセスがとても悪く、一日も早く高速道路を要望する地域です。渥美半島を横断する国道259号線はありますが、信号が多い1車線で、地域住民や観光客からすると決して走りやすい道ではありません。また、先の台風21号や24号の被害で、電柱が数メートルにわたって倒壊し、一時的にはありますが数時間にわたって陸の孤島となりました。渥美半島の住民にとって、交通の迅速化だけでなく命を守る生命線でもありますので、早急に渥美半島にも高速道路を要望するものであります。

10数年前、夢のかけ橋と言われました伊勢湾大橋は、いつの間にか頓挫いたしました。伊良湖岬まで延びる高速道路の整備が、少しずつ実現に向かっていることを感じます。この機会を逃すことなく、三遠南信地域の連携のもとに早期実現に少しでもお役立ちできればと考えています。広範囲な地域連携は情報の共有がなかなかしづらいことがあります。道ができれば地域の連携が密になり、外部へのさまざまな周知が徹底され、わかりやすい地域づくりができるのではないかと考えております。また、渥美半島のおいしくて新鮮な魚介類や農産物がいち早くお届けできますし、観光客の皆様を風光明媚な渥美半島にストレス無くお連れすることができます。

先ほど、全体会でどこの地域も取り残さないとお話しがありました。ぜひ、この旨をご理解いただき、渥美半島にもご尽力をお願いいたしたいと思う次第であります。陳情のような話になりましたが、よろしくお願いいたします。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。渥美半島は私もよく行きますが、この渥美半島を活かしていくための高速道路の整備についてのご発言、ご提言がございました。

次は、北のほうに上がりまして、駒ヶ根商工会議所の山浦会頭さんにご発言いただきたいと思えます。

#### ■駒ヶ根商工会議所 会頭 山浦速夫 氏

9年後にはリニア中央新幹線が開業し、また三遠南信自動車道の開通によって、南信地域の経済構造は飛躍的に改善する条件が整います。地方にとって道路はまさに生命線であり、生活、産業、観光に大変重要な意味を持ちます。特に、長野県の場合は東三河や遠州との産業のつながりは非常に強いですし、標高差1,000mの、浜松のみかんの里と駒ヶ根のリンゴの里まで、三遠南信地域は非常にイメージのいいところでございます。

リニア中央新幹線、東海道新幹線、東名高速道路や三遠南信自動車道で三遠地域と南信地域が結節され、物流や人口の交流が増加し、人口は流入することが期待されていますが、逆に流出することも考えられます。地域一体となって、産業や観光に磨きをかけ、地域の魅力を外へ伝えることが大事だと考えております。

南信地域は、昔から人と文化の交流の拠点でございます。自然条件とリニア中央新幹線との利点を生かして、地域外からの人口流入の誘導で観光産業を活性化させ、中央自動車道沿線のポテンシャルの高いもの

づくり産業をさらに延ばすことが必要であります。また、三遠南信自動車道の開通で三遠地域と日本海が近くなり、南信地域は日本海へ続く物流の北の玄関口となります。この条件を十分に生かせるようなインフラ整備をさらに進めることが必要であると考えております。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。三遠南信自動車道によって日本海と東海道は非常に近くなり、これらが三遠南信の広がりの中に入っていくであろうということ、その中で、南信のさまざまなものを磨いていくというご発言をいただきました。

続きまして、同じ南信州ですが、飯田商工会議所の柴田会頭さんからご発言をお願いします。

#### ■飯田商工会議所 会頭 柴田忠昭

南信州地域は、三遠南信自動車道の整備はもとより、2027年のリニア中央新幹線の開業に向けて、リニア関連道路等の整備が着々と進められております。三遠南信自動車道につきましては、飯喬道路2工区の龍江ICから飯田上久堅・喬木富田IC間が本年3月に完成いたしました。また、来年31年度には天龍峡ICから龍江IC間も開通が予定をされております。先線の飯喬道路3工区、青崩峠道路におきましても工事等が順調に進められ、青崩峠トンネルの本坑も今年度中には着手する予定と伺っております。早期全線開通に期待が高まるとともに、交流人口の増加や物流機能の向上によって地域に大きなストック効果がもたらされ、地域産業の振興や地域経済の好循環の実現に向けて大きな期待を寄せています。

また、産業振興と人材育成の拠点整備も始まりまして、広域連携と社会資本整備の連動によるアジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区をはじめ健康、医療、食品及



び環境などの新たな産業分野の創出も期待しています。

このように地域の特徴や強みを生かした産業づくりなど、活力溢れる地域経済の実現のためには、地域内の連携強化、地域外からの企業、人材、技術等の誘導によるイノベーションが必要であり、これらを支える三遠南信自動車道などの「道」は、地方創生において大きな役割を担うこととなると思います。

しかしながら、地域経済は深刻な人手不足に加えて、経営者の高齢化や後継者の不足により、地域経済を支える中小企業が事業継続、事業継承などの課題に直面しております。当地域におきましては、高校を卒業した生徒の7割が進学、就職等で地域外に転出をしております。また、大学生等のUターン就職者、高校生の管内就職者を合わせた回帰率は4割程度ということになっております。また、当所が実施いたしました「事業引継動向アンケート調査」では、「廃業を考えている」という企業が23%、「事業を継続したいが後継者候補がない」という企業が12%、合わせて35%ということで、事業承継に係る問題が浮き彫りになっております。

このような中、活力溢れる地域経済の実現のためには地域基盤となる「道路」や「鉄道」、当地域におきましては中央自動車道・三遠南信自動車道・リニア中央新幹線及びJR飯田線など切れ目ない広域交通ネットワークの完成が時間、距離の短縮を実現し、三遠南信地域の多様な歴史、文化、自然など地域の魅力を生かした広域観光や着地型観光を実現するものと思っております。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。地域の人が多く出て行くが、帰ってくる人は少ないという非常に深刻な問題がある。そこで広域的な道の整備を結びつけて働ける場をつくっ

ていこうというご発言をいただきました。

続きまして、地域づくりの専門家として、地域づくりサポートネットの山内代表からお願いします。

#### ■地域づくりサポートネット代表 山内秀彦氏

三遠南信自動車道は無料の高速道路で、全線開通後は通過するだけの方が増える、あるいは如実にストロー効果が現れ流出が増えるという課題についてお話しします。福島県の沿岸部の相馬から山形の米沢、そして北へ上る「東北中央自動車道」という無料の高速道路が2年後に全線開通します。無料の高速道路なのでPA・SAがなく、全てのインターチェンジの近くにPAの代わりに道の駅が設置されています。米沢や伊達の道の駅は、今年4月にオープンし、すでに来場者が100万人突破ということで非常に人気です。ただし、道の駅を訪れた人が、お土産を買ったり、食べたりするだけでなく、そこからどうやって人を地域に流すかということが課題になります。そこで、今までつながりが少なかった地域が高速道路で連携し、高速周遊バスの運行、道の駅をゲートウェイと捉えて広域情報拠点化に取り組むとともに、地域内をバスやレンタサイクルで周遊する社会実験を行っております。高速道路から降りて地域を巡ってもらうため、道の駅などを中心に地域を巡ろうと広域スタンプラリーもやっています。同じような連携の取組みが鳥取自動車道沿線でも行ってきました。

三遠南信自動車道も道路整備が進みつつあり、人をどのように回遊させるか、将来に備えて考え、東北中道自動車道沿線地域のような実験してみてもどうでしょうか。また、情報の共有ということであれば、三遠南信の情報コーナーを設置し、地域の一体感を醸成するということが必要です。

最後に、この地域は山間部もありますし、拠点をスポーツeバイク（電動アシスト自

転車)で巡ってもらおうということもおもしろいかなということで、ご提案させていただきたいと思います。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。山内さんから東北を例に、道路に拠点をきちんとつけて、さまざまな周遊するための仕掛けをしていくというご提案をいただきました。

続きまして、阿南町の勝野町長さんお願いします。

#### ■阿南町長 勝野一成 氏

阿南町は国道151号で愛知県の豊根村から県境を越えて長野県に入ったところがございます。この国道151号が整備されてきたおかげで、通学が可能になりました。それまで高校に通うには下宿をしなければならず、大学並みの費用が必要でしたが、通えるようになったことによって、負担がとても減りました。また、通勤者も3割増加し、町外へ通勤できることで所得の確保が図られました。通勤の途中にたまたま道路に倒れていた住民が助けられた例もございます。医療では、愛知県、静岡県とも連携し大きく変わり、産業におきましては夏場の野菜が、浜松の市場への出荷ができるようになりました。それから、一番大きかったのは三遠南信自動車道の鳳来峡インターチェンジまでの開通により、道の駅の来訪者が3万人ふえたことで、これは山間の地域にとっては大きな影響であります。

この三遠南信地域はいろいろな地域があり、まだまだこの道路整備が、経済や文化の発展に資するものであり、必要不可欠なものだと常々感じているところでございます。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。阿南町長さんからは、三遠南信自動車道とダブルリンク

になる国道151号によって、通学、通勤、医療、防災、産業など、道路で生活が随分変わるという、非常に具体的なお話をいただきました。

それでは、前半の最後ということになりますが、新城市長の穂積様からご発言をいただきたいと思います。

#### ■新城市長 穂積亮次 氏

全体会の南信州・飯田産業センター萩本専務理事の、新しい産業の育成でおとぎの国をつくろう、という魅力的な提案を聞いて、新しい世界都市を県境あたりにつくるなら新城だろうなと思って聞いておりました。新城市は新東名高速道路、三遠南信自動車道、浜松三ヶ日・豊橋道路の結節点になっており、それをどう活かすか、また行政基盤をどう強化していくかということが大きな問題意識として出てきております。

全体会で自治体戦略2040という話が出ました。AI等を活用したいいわゆるスマート自治体では、自治体職員が半分になっても公共サービスができるということです。中山間地域、新城市でも自治体の役場の職員を募集しても、域外から就職される方が多くなってきて、移住いただくのはいいのですが、公共機関の供給力そのものが細っていくという非常に深刻な事態になっています。そうなるとうちでも広域的な行政連携も目の前の課題であり、総務省の報告では、県が町村、小さな自治体と補完をし合うという関係性まで描かれてきており、三遠南信地域も新しい連携のあり方を構築していかなければならないと思っております。

#### ■コーディネーター

ありがとうございました。自治体戦略2040でスマート自治体ということが言われてきて、この流れは不可避だろうと思えます。道路ネットワークと自治体のこれからのあり方、地域のあり方は不可分ではない

かということ、特に県境を越えてということになってきますと、取り組む意味合いも大きいというふうに思います。

それでは、重点プロジェクト1「三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト」についてのご意見を、ここで一度切らせていただきまして、アドバイザーの中部地方整備局の池口道路部長にコメントをお願いいたします。

## ■アドバイザー

中部地方整備局 道路部長 池口正晃 氏



アドバイザーという名前をつけていただいておりますが、皆様のお話を伺っていますと、地域の事情、それぞれのお立場の道についてのお話こそが、非常に貴重だと思っております。道路をつくることによってどんな効果があるのかということについては、特に人口の多いところから比較的厳しい目で見られる感じがあらうかと思えます。一方で、皆様からの話を伺うと、物流とか防災とかに非常に期待をされているという印象を持ちました。浜松三ヶ日・豊橋道路については説明が欠けておりましたが、多くの方がおっしゃっていただきました。新東名高速道路などとのネットワークをつなげることに意義があるんだということで、浜松三ヶ日・豊橋道路がないと、この地域が完結しないということは重々理解いたしました。具体化に向けて一生懸命我々も頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

物流につきましては、新東名高速道路が今まで高速道路でつながっていなかったところをつなぐというのは非常に大きな意味があらうかと思えます。また、今年の夏に新東名高速道路は6車線化になることが決まりましたし、これまで以上に新東名高速道路は重要な道路になってくると思えます。さらに防災という観点も、私、実は東日本大震災のときに東北にいたものですから重々感じております。一般道と比べると高速道路の方が、災害に遭った場合の復旧も早いし、スピードも出ますし、非常に大きな効果があらうかと思えます。災害の際にはNPOの方とか、全国の方々からの支援がありますが、内陸からのルートをつくるだけで、皆様のお役に立つのではなからうかと思えます。

あと具体的な、先ほど山内さんからありました、道の駅を使った連携の話をつきながら、情報発信のツールとして、道が地域の役に立つことになるのかなと思えました。

また、新城市長から広域的な行政連携というお話がありましたが、3県の比較的県庁所在地から遠い地域で、どういった連携をするのか、我々もまだ不勉強なところもあると思っておりますので、地域が発展されるためにどのような連携をするとよいのか、ぜひ情報もいただきたいと思っておりますので、どうぞお力添えのほうをよろしくお願ひしたいと思います。

## ■コーディネーター

ありがとうございました。物流面、防災面、さらに具体的な効果ということでアドバイスをいただきました。B/Cに代わる地域持続係数が出るといいかなという感じもいたしました。

それでは、重点プロジェクト2「三遠南信県民の一体感醸成プロジェクト」に移っていきたいと思えます。

県の境のあるこの地域での住民の交流促

進のために、どのように情報の共有発信をしていけばいいのかという、いわば「道」の使い方でもあるのですけれども、こちらから今度はご意見をいただきたいと思えます。

それでは最初に浜松市の飯田議長さん、お願いいたします。

### ■浜松市議会 議長 飯田末夫 氏

なかなか難しいテーマだと思いますが、一体感の醸成と交流促進ということで考えてみたときに、まず大事なことは、地域内に住む人たちに、この地域がいいところなんだという地域のよさを、理解していただくということだと思います。新ビジョンにもそういったことは盛り込まれていますが、地域にいる方たちが理解した上で外に向けて発信をすることで、地域外の方にこの地域のよさが伝わっていくのではないかと思います。

その理由といたしましては、1つ目といたしまして、平成6年の第1回三遠南信サミット以来、この地域の連携は四半世紀を経過していますが、まだまだ三遠南信という言葉自体が知られていないことが課題だと思っております。その中で、現代の情報発信というところとブログ、Facebook、Twitter 等といったものがツールになります。Facebook等でこんなものを食べて、こんなところへ行ったよというのを見ると、自分も案外行きたくくなります。

うまく写真や動画を使って情報発信を進めていく必要があると思っております。

また最近では、この地域共通の五平餅のお土産の売り上げが、テレビドラマの影響で3倍や5倍にもなったというところがあると聞きました。食や、先ほど飯田の清水議長のお話がありました秋の紅葉など、多くの人に体験していただき、写真や動画に撮っていただいて、SNS に発信をしていただくということを、地道に進めていくことが

必要だと思います。

しかし、先ほど河原記者からも、交流とは経済活動のことであるというお話がありましたけれども、インターネットばかりではなくて、人と人が触れ合い、人が行き交うことが非常に大事だと思っておりますので、道というインフラの整備を進めていただく中で、ネットワークを構築し、先ほどお話のありましたぐるっと回る周遊という考えも大事であるということをお話しました。

### ■コーディネーター

ありがとうございます。三遠南信が地域内外に余り浸透していないというお話でした。私も常々感じるころでもありますが、そのために具体的に何をつくり上げていくことが必要かということをお考えなければならぬと、伺っていて感じました。それがインターネットから、人と人のつながりに進展していくということであろうと思います。

続きまして、喬木村の市瀬村長さんをお願いいたします。

### ■喬木村長 市瀬直史 氏

喬木村は三方を飯田市に囲まれた人口6,000人の小さな村でございますが、三遠南信自動車道の飯橋道路の地区と、リニア中央新幹線の仕事、両方が始まっておりまして大変にぎやかになってまいりました。地域がどんどん変わっていくのを実感しておりますが、先ほど浜松市議会の飯田議長からもお話がありまして、私もこの三遠南信という言葉の認知度が余りにも低いということが大きな問題だと思っております。道ができることによって、経済交流ですとか、防災の安全面では飛躍的に向上してきますと思っておりますが、それだけでは寂しいなという気持ちがしております。村では今、ICT教育に力を入れておりまして、村内の学校

が熊本県の小学校やオーストラリアの小学校とテレビ会議システムを使った交流授業を行っております。喬木でつくっている精密部品がこの道を通って、この先の豊橋、この先、海外まで行くんだという夢を持たせる授業をやりたいと思っております。三遠南信の皆様と学校とも交流ができれば、子どもたちがこの地域に関心を持てるのではないかと考えております。

それから各地域には、ケーブルテレビの局がございますが、できればコンテンツを共有させていただきまして、景色のきれいなところがいっぱいあるということや、今日は飯田市のお祭りがあることなど、逐一情報を発信し、まずは興味を持っていただくということが大事だと思います。それぞれの地域の情報に触れる機会を増やすことが非常に大切であり、地域、人、文化をつなぐのは、道だけではなく情報の共有であると思っております。情報の共有ができれば、この道の効果がさらに出るのではないかと考えております。

### ■コーディネーター

ありがとうございます。情報の具体的なお話として、ICT教育で熊本県とつながっているということでした。このように地域内でもつながることは可能ではないかと思えます。また、ほとんどの地域で設置されているケーブルテレビも、そのコンテンツを活用するという具体的なご提言だったと思えます。

続きまして、湖西市の影山市長からご発言をいただきたいと思います。

### ■湖西市長 影山剛士 氏

私の方からは2点お話をいたします。

10月の台風24号は、平成最大と言われるほどこの地域の災害としては大きなものでした。特に湖西市、豊橋市、浜松市など地域によっては丸4日間ぐらい停電が長引き、

信号も丸2日以上消えているという状態でした。どのような影響があるかという点、例えば製造業では、国道1号のバイパスで出勤する従業員の皆さんは、普段であれば30分から1時間かかるものが、半日以上かかっても会社や工場にたどり着けませんし、操業ができていても物流が滞ります。東西にのびる国道1号がそういった状況になった場合には、やはり南北を結ぶネットワークが重要になります。今回で言うとこの三遠南信自動車道、またそこから湖西市を通って三河港に抜けていく浜松三ヶ日・豊橋道路が南北軸にあたります。最近では地元の方から、道路の名前は「三ヶ日・湖西・豊橋道路」の方が良いという声があり、いろいろな方をお願いをしています。このように、南信州から自動車部品を納入している湖西市の企業からも大変な期待を寄せられており、仕事をつなぐ、産業をつなぐ、命をつなぐことに加えて、一体感の醸成的には欠かせないと思っております。

もう1点は観光です。浜名湖という観光資源を生かして、ハマイチというサイクリングの観光振興を行っており、順調に来訪者数が伸びています。湖西市内の調査では、平成27年には年間約22,000台だった自転車の通過台数が、平成29年度では35,000台と、約1.6倍に増えており、実際に自転車で走られている方を見かけることが多くなりました。また、浜名湖だけでなく、琵琶湖や霞ヶ浦などの湖同士の連携も深めております。三遠南信地域内では、南信州でもサイクルツーリズムが盛んですし、渥美半島の菜の花浪漫街道等々もありますので、サイクリングというツールを生かして各地を道で結ぶことで、域内外の連携が深まっていくのではないかと考えております。

### ■コーディネーター

ありがとうございます。直近の台風で愛知や静岡はかなり大変で、そういうこと

に備え、産業地区としてのリダンダンシーを考えなければなりません。また、サイクルツーリズムが、人の動きにつながるというご提言もいただきました。

続きまして、情報をつなぐということではご専門になると思いますが、大原屋コミュニケーションズの代表の尾澤様から、ご発言いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

## ■大原屋コミュニケーションズ

### 代表 尾澤 章 氏

ありがとうございます。飯田市で飲食店を経営しながら、中小企業支援と情報発信の支援をしております大原屋コミュニケーションズの尾澤と申します。きょうは、そうそうたるトップリーダーの中に現場のプレイヤーが投げ込まれたようで、大変恐縮してございます。三遠南信地域の一体感の醸成ということでありましたが、情報発信のことについて話をしたいと思います。

マスメディアに対してソーシャルメディアというような言葉も、最近、耳になじんできていると思いますが、観光もマスの観光とソーシャルの観光に分かれてきていると思います。いわゆる有名観光地であるマス観光に対して、先ほど、飯田議長からお話もありました SNS 等の写真・動画投稿などで広まるニッチな観光のことをこう呼んでいます。このようなソーシャル観光は、決して莫大な経済効果はないのかもしれませんが、強い観光につながるがあります。私自身も豊橋や浜松の同じプレイヤー同士でつながっており、浜松には毎年必ず1回、飲食店の出店で参りますし、豊橋にも、お邪魔することがあります。このようにプレイヤーをつなぐ情報の道と実際の道路や鉄道が、ソーシャルとマスでうまくつながっていくことで、三遠南信という圏域を生むのではないかと考えております。

もう1つ、先ほど柴田会頭から後継者不在

や事業承継の話がありましたが、もしかするとこの三遠南信地域内で事業承継やM&Aが進めることができるのではないかと考えております。そんな中、本日「三遠南信Biz」の新聞を見まして、こういった紙媒体とインターネット媒体などをうまく組み合わせ、小さなビジネスがつながったり、続いたりするようになるのではないかと、非常にわくわく感のある1日を過ごさせていただきました。本日は、ありがとうございます。

## ■コーディネーター

ありがとうございます。2つお話をいただきました。観光についてはマスとソーシャルをどうつなぐか、というご発言をいただきました。事業継承については、「三遠南信 Biz」のように、つながっていきながら広がっていく可能性があるというご指摘をいただきました。

それでは最後になりますが、豊橋市の佐原市長にご発言をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

## ■豊橋市長 佐原光一

まず道というのは、どんな視点でみても、人をつなぐことができる大変すごいものだなと思います。先ほどから話のある浜松三ヶ日・豊橋道路においても、まだ線も何も書いてない状態で、それでも頑張るぞ、と言ったら、とても多くの人たちがつながってくれました。道はできる前からつながっていくのだと思って、大変驚きました。みんなの力があって何とか予算も計上され、今後ますます多くの人をつないでいけるように頑張りたいと思っています。

それから「三遠南信Biz」ではマレーシアでこの地域の果物や野菜を売っている写真まで載せていただき、ありがとうございます。先ほどのお話にもありましたが、やはり情報とかメディアというのはすごく大事で、時空を越えて簡単に物や人を結びつけ

ることができます。もちろん最後は直接つながらなければいけないと思っていますので、情報と道とで人がつながり、物がつながれば、たくさんの経済活動などが生まれると思っています。

実際、道の駅で売られている豊橋や田原の農産物の加工品は、南信州でつくられていることが多いですし、豊橋市の農家も、飯田や駒ヶ根の耕地を借り、豊橋市と同じ品質の農作物を夏に確保しています。これも道のつながりがあってこそできるもので、三遠南信自動車道ができれば、将来はもっと、いろいろなつながりができてくると感じています。

また、豊橋市にも来年の春、いよいよ道の駅がオープンしますので、核となる道の駅として情報を発信していきたいと思います。また、豊橋駅にある「てみりん」というデジタルサイネージを使った情報発信基地でも、地域関連情報をどんどん発信し、利用者の利便性をあげて、もっと広げたいと思っています。三遠南信自動車道ができれば、三河港から南信州に石油もお届けできるようになり、きっと1円か2円は安くなるのではないかと思いますので、ぜひご期待ください。

### ■コーディネーター

ありがとうございました。佐原市長からは、ハードとソフトの間ともいべき、道の駅のお話をいただきました。三遠南信地域は道の駅が27ありますが、28番目にできる豊橋と結んでいくというご提言をいただきました。

それでは、最後にこれまでの意見、特に後半の一体感醸成プロジェクトについて、アドバイザーの池口部長さんからコメントをいただきたいと思います。

### ■アドバイザー

道路は地域をつなぐことができますです

が、道路だけでは地域のことを伝えることはできません。ご提案にもございましたが、地域の特性を発信しながら交流や周遊をつくることは、経済活動という意味では非常に有効であると思います。こういった発信を通じて、道路が交流の中でこういうふうに関わっている、ということが分かり、またそれが世間に知られるということは、道路整備をやっている側からみると非常にありがたいことだと思っています。交流をしようと思ったら道路も必要なんだな、と気づいていただいたら幸いです。

いずれにせよ、道路整備は進んでいきますけれども、これを盛り立てるためには、道路をこのように使うという皆様のお声が非常に重要になってくると思いますので、よろしく願います。

### ■コーディネーター

ありがとうございました。道を実際にどう使うんだ、どう使いたいんだ、ということアピールしていくということが一番重要かもしれません。1つ1つは小さいことかもしれませんが、これまで県境を越えるとはほとんどつながらなかったものが、この場ではできるというこのメカニズムがとっても重要だと思います。今のサミットの様にも年1回では難しいとも思いますが、新ビジョンを現実近づけていくために、こうした場は大きな意味があるのだろうと強く感じました。

それでは、「道」分科会の意見の取りまとめをさせていただきたいと思います。

田中所長の「〇〇をつなぐ」ということを受けて私も考えてみましたが、命をつなぐ、安全をつなぐ、仕事をつなぐ、学びをつなぐ、文化・観光をつなぐ、自治体経営をつなぐ、とたくさんのことが出てきました。それが、ほとんど待ったなしの必要であり、皆様には、どうつないでいくかということをお話いただきました。

道ですから空間的にみると、1点目は南北軸のお話です。日本海側から三遠南信自動車道を経て、浜松・三ヶ日豊橋道路を通り、渥美半島までがつながり、この上に観光や産業、文化が乗っている、見事な南北のつながりで、これが重要だということでした。

2点目は、中山間地域です。三遠南信地域の核は、中山間地域をどうするかということでもあります。三遠南信自動車道にどうしても目がいきがちですが、151号という既存の路線をどう結んでいくのかということが、中山間にとって非常に重要ということでした。特に新城のあたりでは、リニア中央新幹線の開業後、東京へは北から行くのか南に行くのかという判断基準にも影響を与えます。三遠南信地域の中心部分の結び方をどうするかというご発言がありました。

3点目は都市部ですが、三河港や新東名高速道路、東名高速道路は、新ビジョンの中でも環状道路を形成するとして挙げられていますが、この都市部をどう結んでいくかというご発言が挙りました。道としては、以上の3つのことをご報告したいと思いません。

一体感の醸成という面では、メディアやICT教育のお話がありました。道路の整備促進運動自体が地域づくり情報だということでしたが、確かにそのとおりだと思います。そのような運動がソフトをつくり、そのソフトが地域づくりにつながるということでもあります。

道の駅のお話もありました。去年、新城インターチェンジから道の駅まで一時退出実験をやっておりました。ぜみでアンケート調査をしましたが、一時退出が1時間だとできることが少なくて短く、2時間を超えともう少し活動ができるということでした。高速道路から見れば、給油と休憩という位置づけですが、地域側からいえば活動してもらいたいですから、この道の駅はいろいろな活用ができます。また、広域周遊とい

う点でも意義があります。周遊には、サイクルツーリズムも含まれるだろうと思いません。

主な意見として整理させていただきましたが、この後の報告会での報告は、私に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、皆様のご協力によって円滑に、かつ大変意義のある分科会ができました。私自身大変勉強になりました。お礼を申し上げたいと思います。

以上をもちまして、「道」分科会を閉会いたします。